

④物価高騰で事業費が膨らんでいるが、具体的にどこをどう削ってコンパクトにするのか。

⑤現時点では、武道場の新設中止と給食センターの建て替え中止（既存施設の継続利用）を想定。メディアライブラリー等が入る新築校舎の面積も縮小し、機能を精査した上でスリム化を図る。

⑥1年先送りで物価が更に上昇し、歯止めが効かない金額になる恐れがある。これ以上の予算は出せないという上限を設けたり、補助金額から逆算した予算枠をあらかじめ提示するなど、建設費の高騰に歯止めをかける手法は取れないのか。

⑦リスクはあるが、当初の基本設計額を目標に再設計を行う。

⑧すでに文部科学省へ提出している書類や補助金申請をどう扱うのか。

⑨計画での申請は一度取り下げ、設計をやり直し、令和9年度に改めて申請を行う予定であり、既に道や国にも打診済み。



500 m地下坑道視察

⑩今までPTAや学校関係者と積み上げてきた計画を縮小するとなれば、反発も予想される。どのように説明し、理解を求めていくのか。

⑪開校準備委員会や検討部会へ説明を行ったのち、再度議員への説明を行い、その後、町民説明会を開催する。

⑫学校建設をやめるわけではないが、今回の見直しは後戻りできない最終決定になる。一度造った建築を直すには莫大な費用がかかる。子供たちの視点に立った使い勝手の良い学校をじっくりと練り上げてほしい。

### 地下研究施設500m調査坑道を視察

令和8年1月20日

平成17年に地下研究施設整備工事が着手され、令和8年1月15日に完了し、同時に原子力機構も20周年を迎えた。

当日は小口正範理事長と施工者の幌延ジオフロンティア第3期PFI(株)の宮田康一社長の挨拶ののち、佐藤センター所長より工事の概要説明があった。

その後、2班に分かれ、500mの地下を視察した。西立て坑よりエレベーターで約6分程度で500m調査坑道に到達し、換気、東立て坑に通じる2本の調査坑の横穴を見学して地上に戻った。

令和10年頃の調査終了後には三者協定による埋め戻しが約束されている。世界的にも貴重な研究施設をこのまま埋め戻すことがいいのか、これからの課題と感じた視察だった。

## 議会の動き

- 11月26日 ▶ こども議会が開催され、議員全員が出席
- 11月27日 ▶ 第6回まちづくり常任委員会が開催され、委員全員が出席
- 12月10日 ▶ 第7回幌延町議会定例会が開催され、議員全員が出席  
▶ 第7回まちづくり常任委員会が開催され、委員全員が出席
- 1月16日 ▶ 第1回幌延町議会臨時会が開催され、議員全員が出席  
▶ 第1回まちづくり常任委員会が開催され、委員全員が出席

### 北海道社会貢献賞 高橋秀之議員受賞 (12月10日)伝達式

初当選 平成19年、現在5期目、令和元年、令和5年 議会議長。現在、まちづくり常任委員長。

プロフィール

生年月日 昭和20年7月7日

趣味・特技 ゴルフ

## 編集後記

今年の干支は「丙午」です。60年周期でやってくる珍しい干支で「丙午」に生まれた女性は気が強く夫の命を縮めるといふ迷信があり、昭和41年の「丙午」は出生率が大きく下がった記録があります。むしろ「強くて芯のある人」とポジティブに考えてはいかがか。迷信、迷信。

1月5日に「二十歳の集い」(旧成人式)が開催され、該当者(19名)とその家族、来客が参加しました。二十歳を迎える一同が近況報告をするコーナーで、「将来地元に戻って恩返しをしたい」と夢を語った言葉に感動し、人口増加のため、帰ってくる人に対する政策も必要と考えさせられた。

本年も皆様のご健康とご多幸を祈願申し上げます。今後も議会報のご愛読をお願いいたします。

議会報発行編集委員

- 委員長 深澤 博幸
- 副委員長 佐藤 忠志
- 委員 無量谷 隆
- 委員 高橋 秀明